

かんきつにおけるネオニコチノイド系殺虫剤 抵抗性ワタアブラムシの確認

施設かんきつ園において、ワタアブラムシに対するネオニコチノイド系殺虫剤の効果が低い事例が
みられたことから（写真）、薬剤感受性評価を行った。

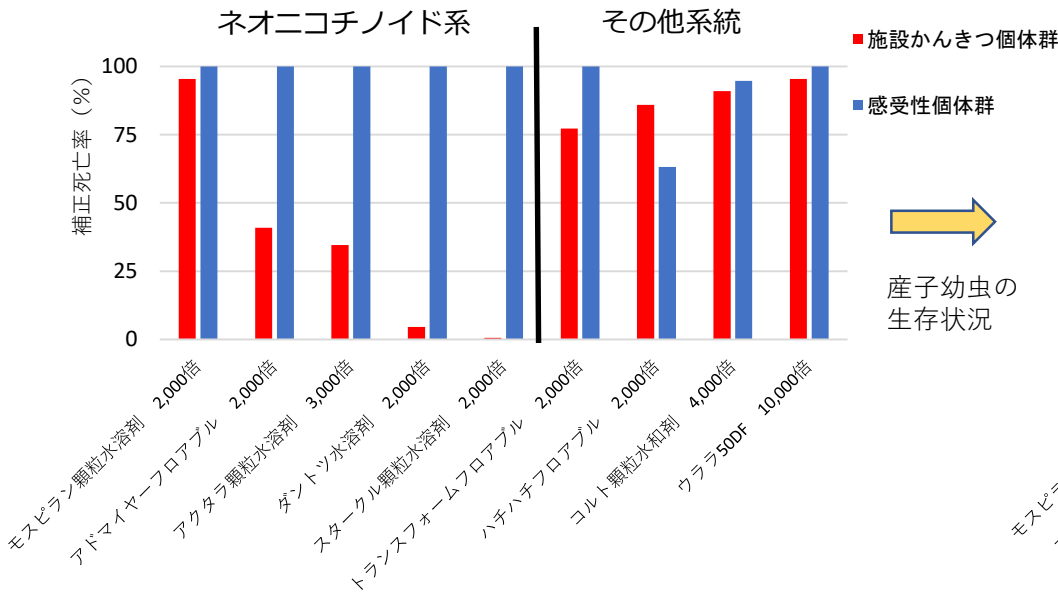


図1 ワタアブラムシに対する薬剤の効果（成虫死亡率・室内試験）

施設かんきつ個体群：令和4年8月 松山市施設栽培愛媛果試第28号園より採集

感受性個体群：令和4年9月 松山市露地栽培スイカ圃場より採集

試験方法：各薬剤に浸漬したインゲン葉・ナス葉リーフディスクにワタアブラムシ無翅雌成虫を放虫し、処理72時間後に成虫の生死別虫数と生存幼虫数を計数した。

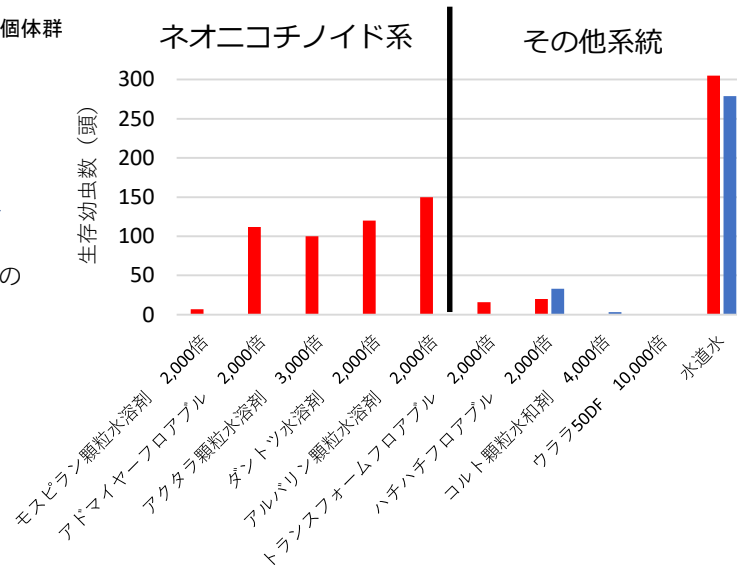


図2 ワタアブラムシに対する薬剤の効果（生存幼虫数・室内試験）



写真
ネオニコチノイド系殺虫剤散布2日後のワタアブラムシの寄生状況

結果

- ・ネオニコチノイド系殺虫剤に対する抵抗性個体群が確認された
- ・ただし、モスピランはある程度の防除効果があると考えられる
- ・ネオニコチノイド系殺虫剤以外の薬剤は、防除効果が高い

今後の課題

- ・今回の供試以外の剤について効果の確認
- ・抵抗性個体群の分布状況の把握
- ・ワタアブラムシ以外の感受性の確認

注意点 抵抗性が確認されたのは施設内に発生したワタアブラムシのみであり、ユキヤナギアブラムシやミカンクロアブラムシについては、現在のところ確認されていない。